

# 県立春日部高校 卒業生「私の思い出」

本紙首都圏版「母校をたずねる」の県立春日部高校シリーズに、卒業生から多くの反響が寄せられました。「私の思い出」の一部を紹介します。【まとめ・萩原佳孝】

## 師に見守られ友と

会社員、加藤武司さん  
(70) 1968年度卒、  
越谷市

思い出深いのは現代国語を3年間教えていただいた堀越祥先生です。入部したバスケット部の顧問で3年生の時のクラス担任でした。入学早々の授業で「何か質問はないか？」と問われ、一同沈黙。直後先生に指名され、逆に質問されたが答えられず、立ち上がったまま頭が真っ白に。その時は意地悪教師かと思いました。が、皆に授業に取り組み姿勢を論じたのだと後で気がつきました。

卒業翌年の70年の正月、ご自宅に招かれ訪ねたら、3年の時の級友・永岡洋治君がいて、2人で将来の夢を語り合いました。

会社員、齊藤繁郎さん  
(49) 1990年度卒、川越市

授業で印象に残っているのは英語と体育です。英語は毎日1コマ以上あり、副読本の難しさは

## ネイティブと英語で話す

最も多感な時期、3年間で染まった「買美剛健」の気風は、大学進学やその後の人生を歩む上で僕自身に少なからずの影響を与えてきたように思います。

中学校の英語とは段違いでした。当時はAET (Assistant English Teacher)

## 文系理系超越目指して

社会保険労務士事務所勤務、太田悠介さん(36)  
2002年度卒、さいたま市西区

「本当は全部の科目を勉強してほしい」と言われたことは今でも心に残っている。文系理系のクラス分けのときの先生からの言葉だ。「大学入試への勉強効率を考えると分けざるを得ないが、本当はあらゆるものを学んでほしい」

## 宿題50年後終えた気分

久喜市学童保育運営協議会理事長、橋本久雄さん(74) 1964年度卒、久喜市

春日部高校を取り上げた「母校をたずねる」に興味深くなつかしく拝見しました。うれしくてペ



開校時の名称「第四中一」を十字で表現したともいわれる春日部高校の校章。旧制中時代から横インサイン

「sh Teacher」英語指導(助手)制度が始まったばかりで、英国人教師が来る日は必ず放課後職員室へ行き、英語で話をしました。最初はほとんど会話が成立しませんでした。が、少しずつ意思疎通ができるようになりました。ネイティブの英語に触れながら難しい授業を受けることで、無理なく大学に合格する力を得られたと思います。



地域開放広場に建立された、昭和を代表する俳人、加藤楸邨の句碑「木の葉ふりやまず いそぐないそぐなよ」。楸邨は1929(昭和4)年に旧制柏壁中に国語教師として赴任。俳句の道を歩み始めた

している。世間の分類では文系になるのだろう。しかし、高校では理系を選択した。社会における文系の仕分けは強く、両者の隔たりはあまりに大きい。

中学校長を退職後、論語の勉強をすることになり、以来十余年が過ぎました。そして、「辞達而已矣」を勉強した時、やっと気がきました。

できるものではない。そんな示唆をもらった。現在、私は労務系の仕事をしています。

中学校長を退職後、論語の勉強をすることになり、以来十余年が過ぎました。そして、「辞達而已矣」を勉強した時、やっと気がきました。

「本当は全部の科目を勉強してほしい」と言われたことは今でも心に残っている。文系理系のクラス分けのときの先生からの言葉だ。「大学入試への勉強効率を考えると分けざるを得ないが、本当はあらゆるものを学んでほしい」

春日部高校を取り上げた「母校をたずねる」に興味深くなつかしく拝見しました。うれしくてペ

を執った次第です。第一回で北村薫氏が触れられていた堀越祥先生に小生も思い出があります。漢文の授業で、愚問を呈した時に、「これはこういうことですね」とやんわりと補足をしてい

ただきました。さすが高校の先生は違うなと実感しました。



春日部高校の旧校門。1999年に現在の3代目校舎が完成した後もそのまま残された。後ろに広がる地域開放広場は市民が自由に散策、通り抜ける

縁あって、2022年9月の母校・久喜小学校の150周年記念事業で、前座として子どもたちに論語の講座を3回シリーズでやることになりました。本番での講演は「こども論語塾」で有名な安岡定子氏です。足元に及ばないのは、先刻承知ですが、堀越先生の教えは守りたい。